

受賞者の声（公開）

氏名	服部 倫弘	
受賞時所属	(所属) 中部大学先端研究センター	
	(職名) 特任准教授	
現所属	(所属) 同上	
	(職名) 同上	
受賞テーマ名	新規含シリルペプチド機能解明と活性ペプチド探索システムの構築	
受賞テーマにおける研究活動の現況		
<p>本研究は中分子医薬品として需要の高い配列分子であるペプチドを効率よく形成する手法、また効果的に最適配列を導き出すハイスループット手法の確立を目的として立案した。現在では、新規骨格であるシラサイクリック化合物（ジペプチド誘導体）を多様なアミノ酸で調製可能な一般性ある手法を確立し、化合物の N, C 両末端で進行可能な新たな反応性を見出すことができた。加えて、収束型合成法によりペプチド鎖同士の縮合であるライゲーシオン反応が円滑に進行する試薬の調製及び反応条件の確立を達成した。これらの手法により、配列を限定しないあらゆる側鎖アミノ酸を所望の位置に配置したペプチドを効率よく合成することが可能となった。本手法は一律して液相合成で実践しているため、グラムスケール合成に対応可能であることを確認し、モデルとして生物活性を有する配列形成を実施した。この効果的なライゲーシオン試薬については今後市販化も検討しており、実用的な適用に期待している。</p>		
今後における研究活動の展望		
<p>今後は調製したオリゴペプチドの後期修飾に焦点を当てて研究を継続する予定である。ペプチドは構成するアミノ酸の側鎖官能基の多様性により万能の機能を発揮するポテンシャルを有している。一方で、適用される主要なアミノ酸側鎖官能基は限定的であり、このポテンシャルを活かしきれていないのが現状である。そこで、非天然アミノ酸の調製が着目されているが、調製、合成、評価を系統的に実施することは効率が悪く、現実的ではない。そのため、合成したペプチド配列を直接官能基化して修飾することでこれらの円滑化に努める所存である。</p>		
受賞後の反響・各賞の受賞等		
<p>わかしゃち奨励賞を受賞後、2026 年度日本薬学会奨励賞および Chemist Award BCA 2025 を受賞いたしました。また、Thieme WebCheminar: Rising Stars in Organic Synthesis および第 56 回中部化学関係学協会支部連合秋季大会にて講演の依頼をいただきました。</p>		
わかしゃち奨励賞への期待		
<p>本賞を受賞後、招待講演、学会賞の受賞など貴重な後押しいただけたと実感しております。特に基礎研究に携わる若手研究者は成果に見合う評価を受けることが大変難しい状況にあると感じております。今後も若手研究者にスポットを当ていただき、ご支援いただけますと幸甚です。</p>		